

学位論文の要旨（論文の内容の要旨）  
Summary of the Dissertation (Summary of Dissertation Contents)

論 文 題 目  
Dissertation title

日本語と延辺朝鮮語における依頼談話の展開について  
—談話構造とストラテジーの考察を中心に—

広島大学大学院国際協力研究科  
Graduate School for International Development and Cooperation,  
Hiroshima University  
博士課程後期 教育文化専攻  
Doctoral Program Division of Educational Development and  
Cultural and Regional Studies  
学生番号 D084310  
Student ID No.  
氏 名 張 雪梅 □  
Name Seal

本研究は、日本語と延辺朝鮮語に関する依頼談話の構造を考察したものである。これまでの先行研究は (1) 談話の全体的構造を見たものが少なく、とりわけ再依頼に関したものが少ない、(2) 会話のやり取りの中で行われる「依頼」を見ていない、(3) 〈話段〉内部の展開や他の〈話段〉への移行とストラテジーの関連を見ていない、(4) 再依頼における、承諾を引き出すポイントとなるストラテジーに関する考察が足りない、等の問題点がある。

そこで、本研究では日本語と延辺朝鮮語における「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の談話展開について、依頼者ストラテジーと被依頼者ストラテジーの相互作用（被依頼者側の発話の依頼者側への影響、依頼者側の発話の被依頼者側への影響）の観点から、依頼談話の〈話段〉の展開過程を総合的に捉えて依頼談話の構造を明らかにすることを目的とする。

この目的を達成するために、日本人と延辺朝鮮族の大学生を対象にロールプレイを行い、「親しい同関係」「負担度の大きい」、「お金を借りる」場面と「翻訳を頼む」場面を設定して考察を行った。

本論文は全八章で、第一章では、研究の動機、目的、意義、本研究で扱う分析対象、範囲、論文の構成を叙述した。第二章では、主に英語の会話分析の理論を述べ、会話における言語使用のアプローチと依頼に関する先行研究を概観したうえで、本研究の研究視点と課題を提出した。第三章では、本研究で用いるデータについて紹介する。第四章では、本研究における依頼談話を構成する分析単位と依頼談話の分析方法について述べた。第五章では、日本語と延辺朝鮮語の依頼談話について、〈話段〉からみた談話構造の分析を行い、全体的構造をみることで全会話における〈話段〉のパターンを抽出した。第六章では、五章の分析をふまえて、両言語で出現数が圧倒的に多い〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉

を取り上げ、【本用件部】における〈話段〉の構成要素としてのストラテジーを分析した。第七章では、【再依頼部】における〈話段〉の構成要素としてのストラテジーの用いられ方、実質的な展開に寄与したストラテジーについて見た。第八章では、本研究で得られた結果をまとめ、また今後の課題を述べた。

本論文で解明したことは次のようにまとめられる。

(1) 〈話段〉レベルからみた依頼談話の全体的構造

両言語の共通点：両言語で談話展開の流れは「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の3種類があった。その中で〈依頼の話段〉〈依頼応答の話段〉が依頼談話の最も基本的な構造を成していることが分かった。また、〈交渉の話段〉は「曖昧・再依頼・承諾」の展開が含まれた【再依頼部】で重要な〈話段〉となっている。そして、【再依頼部】の〈話段〉の種類は【本用件部】よりずっと多く、組合せも複雑である。

両言語の会話で9割以上となっているパターンは2つある。1つは、**パターンⅠ：（依頼＋依応）<sub>n</sub>**で、もう1つは**パターンⅡ：（依頼＋依応）<sub>n</sub>＋（交渉）**である。

両言語の相違点：日本語は親しい友達関係でも難しい内容を依頼された場合は初依頼ですぐ承諾をすることが少なく、曖昧か拒絶の態度を取るのが一般的だが、延辺朝鮮語は難しい依頼をされても承諾するケースが多く、承諾した場合と曖昧か拒絶した場合の会話数の差が少ない。話段の総数と組合せは、日本語のほうが話段の総数と種類が多く、組合せも複雑であった。

(2) 【本用件部】

a ストラテジーの出現頻度

日本語の【本用件部】は話者交替が激しく、1ターン内での内容は多くはないが、ストラテジーの総数とほぼ全てのストラテジーの1会話平均が延辺朝鮮語より数が多い。日本語は【本用件部】で被依頼者の態度の影響を受けやすい。

b 【本用件部】の始まり

日本語はストラテジーが短簡で、延辺朝鮮語は長くてストラテジーの組合せが複雑である。両言語は最初に使うストラテジーによって次の展開が予測できる傾向がみられた。

c 談話展開のパターン

「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」を応答ペアと見做し、構造パターンをみたが、両言語とも特定のものに集中する傾向が見られた。日本語は依頼をすることになった経緯や、依頼者が置かれている状況を徐々に被依頼者に浸透させ、ゆっくり依頼を切り出す。延辺朝鮮語の主要な談話展開のパターンは「隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」/「拒絶」」となっている。

d 「情報のやり取り」と「依頼」の仕方

「情報のやり取り」：日本語は話者交替が激しく、【本用件部】で「情報提供＋相槌」が数多く使用されていた。延辺朝鮮語は話者交替が少なく、依頼者は1ターンで沢山の情報量を提供していて、複数ストラテジーが多用される傾向があった。

依頼の仕方：日本語は「依頼」のみ話されることが多く、複数ストラテジーの使用は多くはないが、相手に配慮をしながらソフトに依頼を切り出すのが一般的となっている。それと反対に延辺朝鮮語は使えるストラテジーを何でも使おうとして1発話に複数ストラテジーを使用することが多く、{圧力型}を複数ストラテジーに組合せたりして強く訴える特徴があった。

e 【本用件部】の終わり

「依頼・承諾」の場合は、日本語のほうが「積極的受諾型」が多い。「依頼・曖昧」の場合は、両言語は終わりで単独ストラテジーを使用して曖昧な態度を示すことが多い。

「依頼・拒絶」の場合は、両言語は単独ストラテジーの「直接的な断り」で終わるのが最も多い点で似ている。間接的な断り方は日本語のほうが多く、延辺朝鮮語は断り方が直接的で、強硬な態度で相手を諦めさせていた。

(3) 【再依頼部】

a ストラテジーの全体的傾向

両言語は差が小さくなり、【再依頼部】になると延辺朝鮮語も日本語と同様、積極的にストラテジーを使用しようとする傾向が伺える。最も変化が大きいストラテジーは【本用件部】で使用が僅かだった{負担感関連型}である。

b 【再依頼部】の始まりに使用されたストラテジー

【本用件部】の拒絶直後に使用された「受け止め」のストラテジーの割合は日本語が延辺朝鮮語の10倍弱にもなっている。【再依頼部】の他の始まり方としては、{主張型}{論理型}以外に{負担関連型}が付け加わっている。延辺朝鮮語は{圧力型}を多用している。

c 「談話中で依頼を断られない展開」

隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」

依頼を断られた後さらに依頼をする【再依頼部】の最終的な段階となるこの展開は、両言語の会話者が「依頼」と「承諾」の隣接応答ペアを主に使用するシンプルなものになっていた。

応答を保留する挿入発話連鎖

日本語では「積極的な態度か配慮の態度」と取っても完全に依頼が成功していないと  
思って積極的に依頼を続けるが、延辺朝鮮語では依頼がほぼ達成できたと思ってそれ以  
上依頼を続けていない。

被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合

この展開で被依頼者が主導的に積極的な態度を取っているので、依頼者は特にストラ  
テジーを工夫しなくても依頼は成功へと展開していくことが明らかになった。

d「談話中で依頼を断られる展開」(1)

隣接応答ペアとしての「依頼-拒絶」

両言語では主張型と論理型に使用が集中している点で似ている。被依頼者の「拒絶」  
に発話されたストラテジーは両言語とも「直接的な断り」が多い点では似ているが、日  
本語のほうが延辺朝鮮語より間接的な断り方が多い。

拒絶を保留する挿入発話連鎖

日本語では「依頼」から「拒絶」に到るまでの形成過程で単刀直入に拒絶せず、拒絶の  
前に様々なクッション、徐々に相手に拒絶することを予測させている。それに対して、延  
辺朝鮮語は「拒絶」の予告を含まず、直接に「拒絶」が発せられることが日本語より多い。

拒絶直後のストラテジー

日本語は拒絶に対して一旦受け止めるストラテジーが延辺朝鮮語の9倍以上も使用さ  
れているのに比べて、延辺朝鮮語は{圧力型}を{負担感関連型}と{主張型}と組合せて使  
用する傾向があった。

実質的な展開に寄与したストラテジー

依頼者と被依頼者のどちらからでも発話することができる。両言語で{負担感関連型}  
に関する内容が実質的な進展に寄与するのに、効果的であった。また、日本語では「依  
頼」、延辺朝鮮語では「圧力」のストラテジーも効果的であった。

e「談話中で依頼を断られる展開」(2)

隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

依頼を断られた後さらに依頼をする【再依頼部】の最終的な段階となるこの展開で、両  
言語の会話者は「依頼」と「承諾」の隣接応答ペアを主に使用してストラテジーの使用が  
シンプルになっていた。

承諾を保留する挿入発話連鎖

両言語は被依頼者が積極的な態度を取った後、会話者間のやりとりを通して合意をして最終的に依頼は成功する。しかし、日本語では非実質的な内容のストラテジーを発しており、延辺朝鮮語では実質的な内容のストラテジーを使っていた。

以上のことから日本人の親友に依頼をする際の筆者なりの留意点を述べれば、日本語特有の「依頼-承諾」「依頼-拒絶」の応答ペアの形成過程を洞察し、「情報提供」は詳しく、依頼はゆっくり持ち出し、ソフトに表現する。権限の原則への違反行為を避ける。被依頼者の反応に関して敏感に対応し、共同作業で構築するのが望ましいということになる。